

アイナメ (地方名：ネオ)



アイナメの成長(年齢起算日1月1日)

年齢	オス		メス	
	全長 (cm)	体重 (g)	全長 (cm)	体重 (g)
1	22.3	136.9	20.8	111
2	31.6	332.8	31.2	318.7
3	36.9	628.2	38.1	693.1
4	40	797.5	42.7	976.9
5	41.7	906.7	45.8	1202.8
6	42.7	979.4	47.8	1370.4

福島水試研報8号

生態

- 分布・移動：日本各地の沿岸に生息し、朝鮮半島と黄海沿岸にも分布します。
- 成熟・産卵：メスは満2歳で成熟します。1尾のメスが期間中に何度も産卵をします。オスは満1歳でおよそ半数が成熟します。繁殖期のオスには黄色の婚姻色が現れます。オスは巢に複数のメスを誘い込んで産卵させ、卵は緑褐色のかたまりになります。これをオスが保護します。産卵期は12～1月で、1月末にはほぼ産卵を終了します。
- 食性：貝類、イカ類、甲殻類、魚類、多毛類などを食べます。

漁獲の動向

平成22年の漁獲量は111トン、金額は1.1億円でした。昭和60年～平成元年は400トン以上、6億円以上の水揚げがありました。

震災以降、操業自粛と国による出荷制限のため水揚げはありませんでしたが、平成28年9月から試験操業が開始されました。漁獲量は2.8～17.5トン、漁獲金額は8～15百万円(H25～29年は相対取引のため、漁獲金額データなし)で推移しています。平成30年以降漁獲量、漁獲金額ともに減少し、令和4年は10.7トン、11百万円となりました。

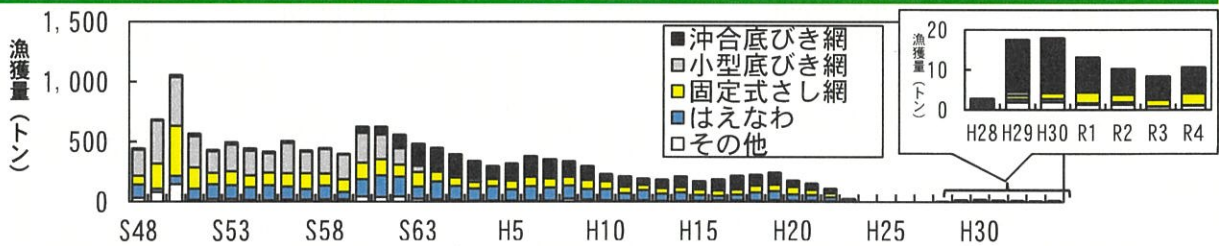


図1 アイナメの漁業種類別漁獲量の推移

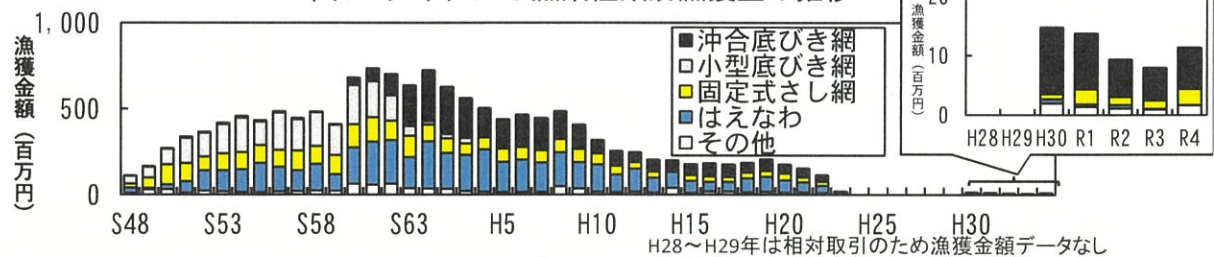


図2 アイナメの漁業種類別漁獲金額の推移

資源の状態

- 底びき網のCPUE (1時間曳網あたり漁獲量)は震災後に増加し、その後減少傾向で推移しています。
- 松川浦における稚魚調査結果から、近年の加入水準は低水準と考えられます。

資源の水準：低位
資源の動向：減少

現在実施されている管理策

アイナメ資源管理計画に基づき、平成10年から全長15cm規制を実施しています。

今後考えられる管理策

全長30cm未満の小型魚をなるべく漁獲しないようにすることで、平均単価の上昇、漁獲量の増加が期待できます。また、単価の低い11～12月の漁獲をなるべく抑えることも、産卵量の増加、資源の有効利用の上で重要です。